

男女共同参画に関するアンケート(2023年)結果 (ハイライト版)

実施期間：2023年2月22日(水)～3月7日(火)

回答方法：google フォーム

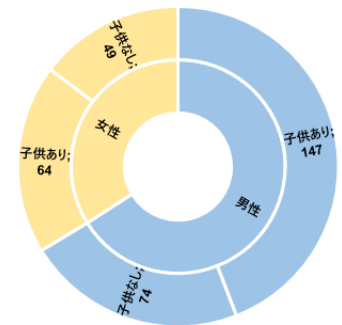
対象者：慶應義塾を本務先とする基礎系医師および臨床系医師全員

回答数：334名(対象医師数：2,664名 回答率：12.5%)

I. 回答者特性

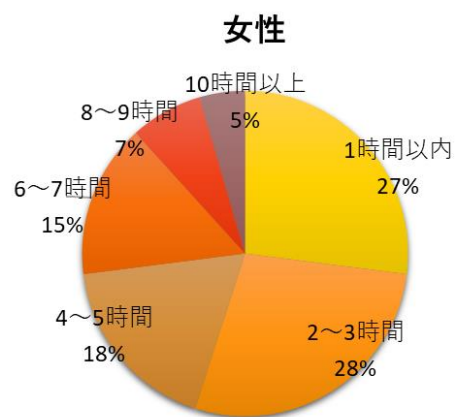
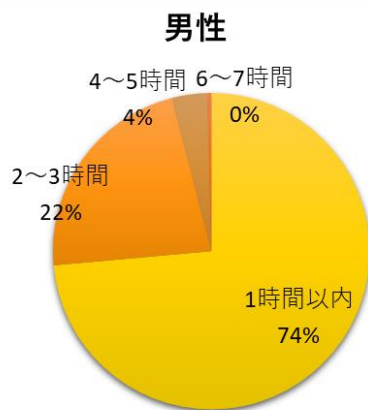
1. 回答者の年齢、性別、子供の有無

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
男性 (N=223)	5%	29%	22%	8%	4%
女性 (N=111)	4%	15%	10%	4%	1%

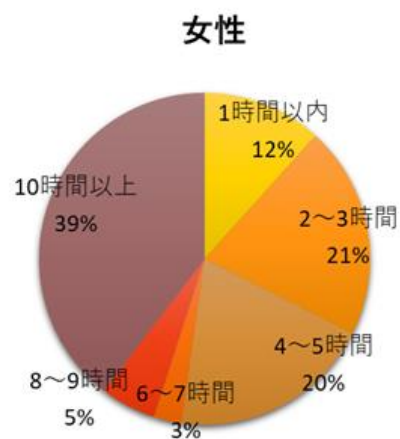
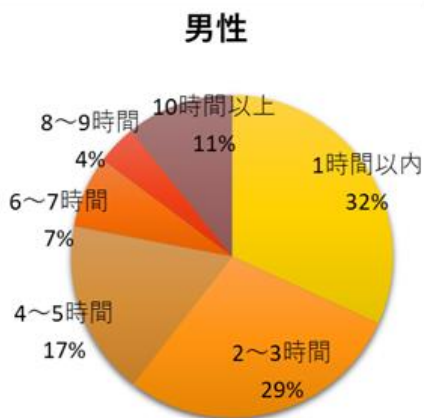


2. 家事・育児・介護に要する時間

a. 勤務日

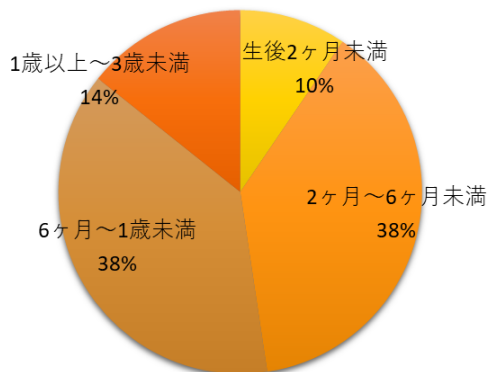


b. 非勤務日

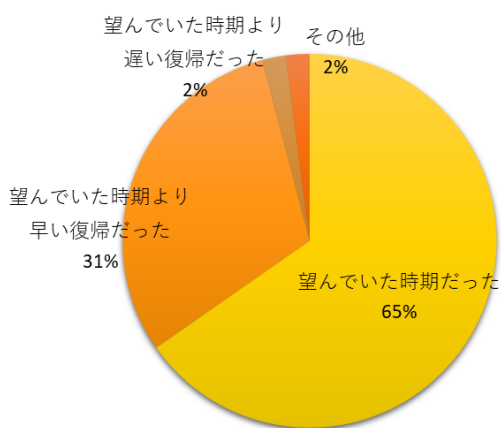


II. 出産・育児に関する意識および実態調査

1. 出産後、お子様が何歳の時に職場復帰されましたか（お子様がいる女性医師対象）



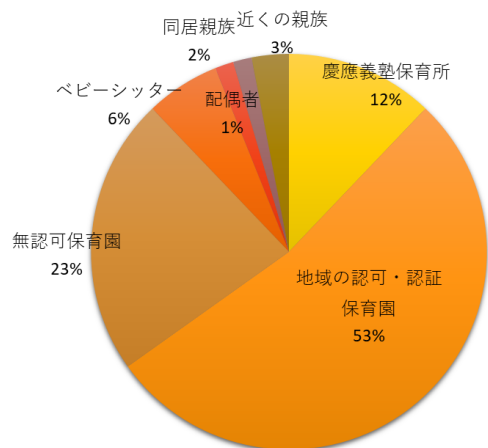
2. 復帰時期は望んでいた時期でしたか（お子様がいる女性医師対象）



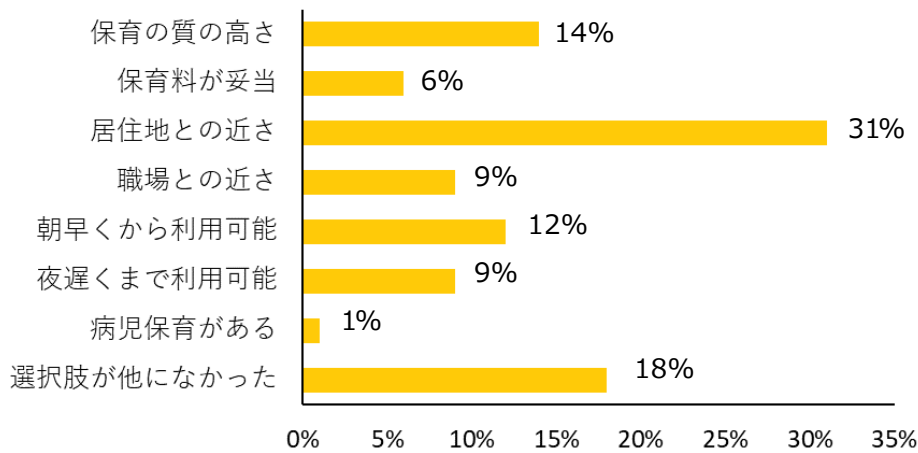
望まない時期の復帰になった理由

- 保育園入園の関係
- 専門医取得のため
- 医局の要望
- 異動のタイミングに合わせるため
- 担当プロジェクトの進捗状況
- 家庭の事情

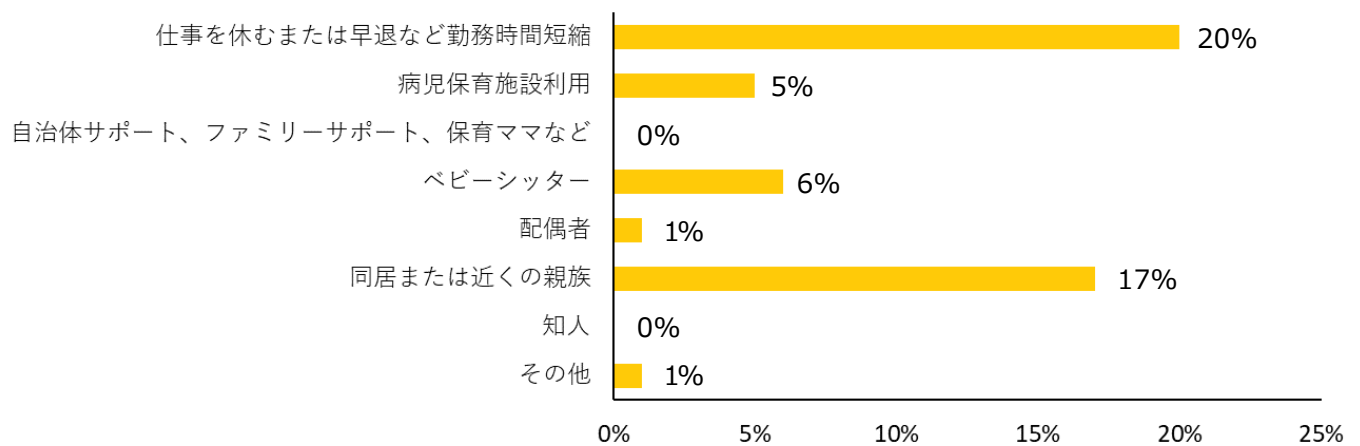
3. 復職時の保育は主にどこ（誰）でしたか（お子様がいる女性医師対象、1つ回答）



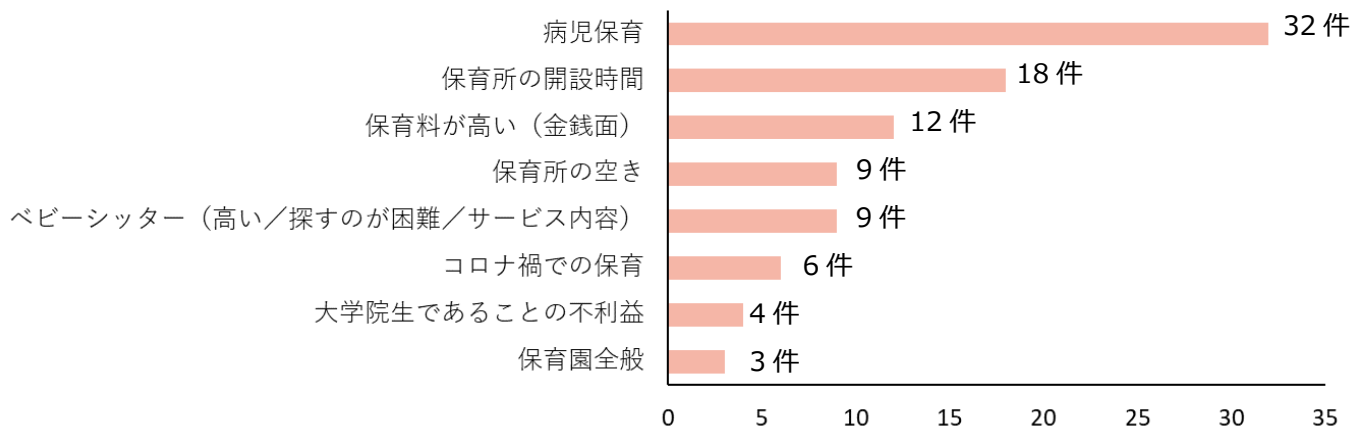
4. その保育施設を選んだ理由を教えてください（お子様がいる女性医師対象、複数回答可）



5. お子さんが病気の際は主にどうされましたか（お子様がいる女性医師対象、1つ回答）

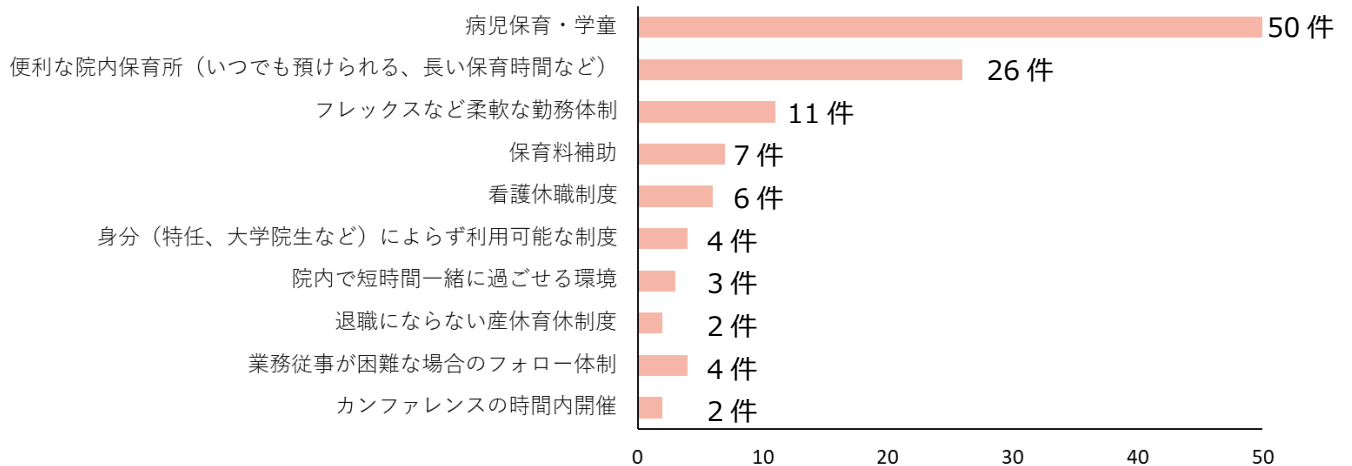


6. 保育サービスの課題についてお聞かせください（お子様がいる方全員、自由記載）

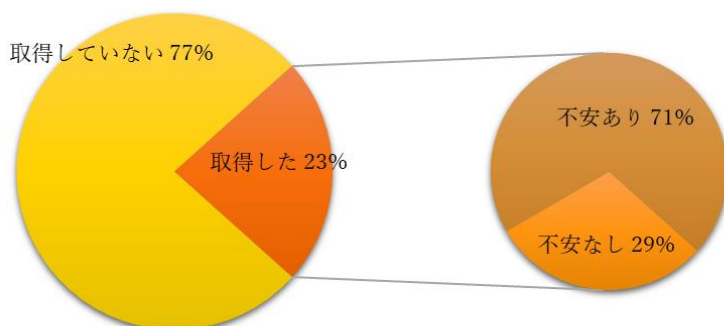


その他の意見（抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 土日の保育施設の充実 ➤ 地域の学童保育は終了時間が早く、民間の学童を利用すると高額 ➤ 民間の病児シッターは高額で、病気によっては直前で預かり不可になる ➤ 子供の状況によっては保育・預入に制約があり、一時預かり等が利用できない ➤ 大学院生だと、地域の保育園で学生扱いとなり不利 ➤ 配偶者者の勤務日数によって利用できる日数が制限 ➤ 冷凍母乳利用の検討

7. 育児に関して病院（職場）で導入してほしい制度を教えてください（お子様がいる方全員、自由記載）

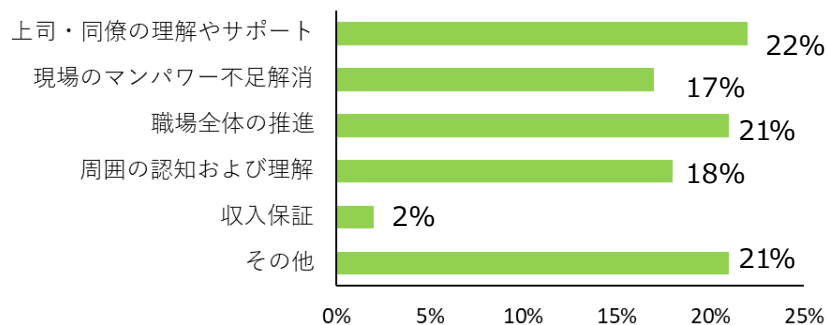


8. 男性医師にお伺いします。育児休職を取得しましたか（取得したいですか）。取得した場合、不安や困難がありましたか。



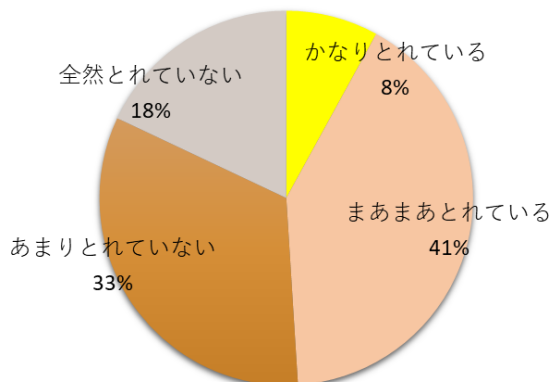
不安の理由
➤ 業務の引継ぎ
➤ 休職中のスキルダウン
➤ 休職中の業務蓄積
➤ 家計への影響
➤ 周囲の雰囲気
➤ 評価低下の懸念

9. 男性が育児休職を取得するために何が効果的だと思いますか（複数回答可）

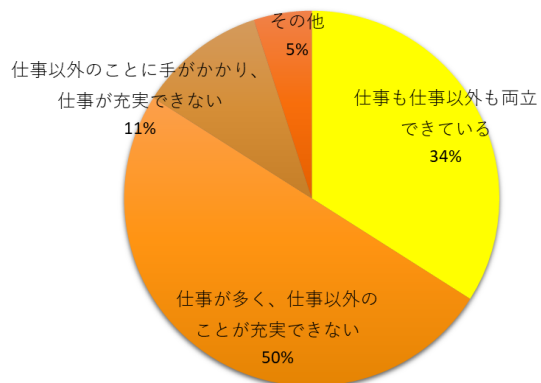


III ワークライフバランス、育児と仕事両立に関する調査

1. 現在、あなたの生活はワークライフバランスがとれていますか（全員回答）



2. ワークライフバランスの回答理由を教えてください

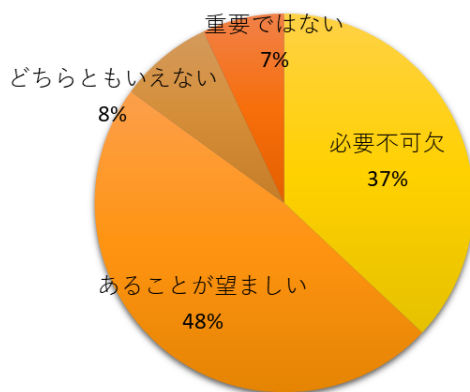


3. 子育てと仕事を両立するために重要なことを教えてください（全員回答）

項目	とても重要	あった方がよい	重要でない
各所属部署における理解 (%)	86	13	1
特定業務の免除 (%)	48	43	9
勤務時間の短縮 (%)	46	46	9
カンファレン参加方法の工夫（Web参加可など） (%)	52	42	6
ワークシェアリング導入 (%)	67	31	2
裁量権の拡大 (%)	55	40	4
各所属部署専任のメンターなど相談できる第三者 (%)	84	15	1
出産・育児経験のある女性職員との話し合い (%)	33	53	14
同じ境遇の仲間との話し合い (%)	30	51	19
家庭や親せきなどの保育サポート (%)	40	48	12
院内保育（慶應義塾保育所）の充実 (%)	63	33	4
慶應の育児支援制度の内容の充実 (%)	53	44	4
大学事務部門内の相談できる専門部署 (%)	37	54	9
配偶者の職場の育児支援制度の利用 (%)	56	37	7

IV 慶應義塾大学病院の制度に関する調査

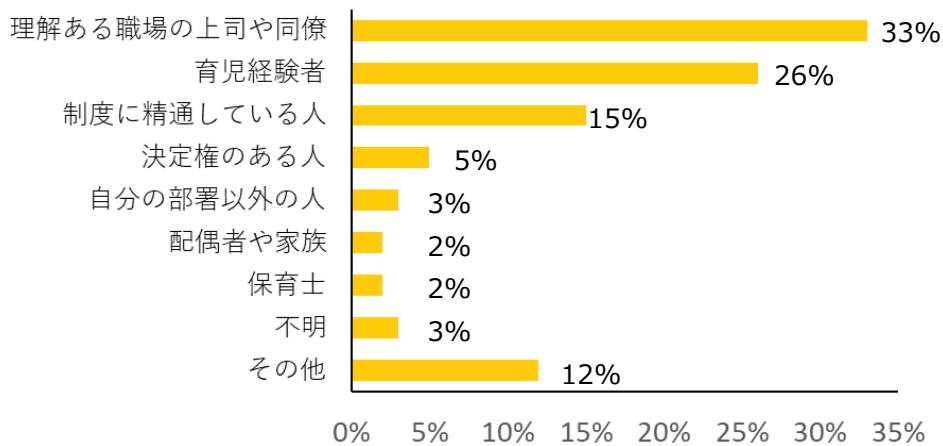
1. 院内保育施設（慶應義塾保育所）の存在はどのくらい重要でしょうか（現在お子様がいる方、今後お子様を希望されている方全員）



その他の要望

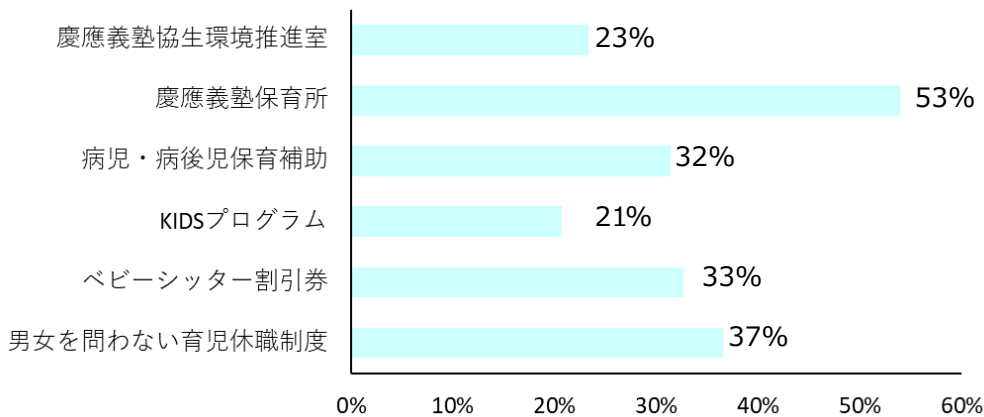
- 入所できるかどうか重要
- 突然の時間延長に対応
- 病児保育
- 早朝・夜間の対応

2. 育児と仕事を両立するための具体的な相談体制整備するにあたり、相談相手はどのような方が望ましいでしょうか（全員、自由記載）



その他の意見（抜粋）	
➤	育児しながらスーパーウーマンのように働いている方の話は逆に参考にならない
➤	家庭のプライバシーが守れるように第三者へ相談できると嬉しい
➤	相談では解決しない。有給スタッフ増員が絶対的に必要
➤	男性の育児に関しても相談できる仕組みが欲しい

3. 慶應義塾大学病院での下記制度や取り組みをご存じですか。（「はい」の割合）



4. その他のご意見（自由記載、抜粋）

- 男性医師の育児休暇や時短制度についても充実させてほしい
- 育児側の相談はもちろん重要だが、穴埋めする側のサポートにも配慮が必要

V サマリー

2023年2月22日(水)～3月7日(火)に男女共同参画ワーキンググループ主催で、出産・育児にフォーカスしたアンケート調査を実施した。復職時期やワークライフバランスに

ついて満足度が高い反面、課題も抽出されており、今後さらなる制度改善やサポート体制構築に努めていく。

1. 出産後の復職時期は多様で、65%が希望時期に復職したと回答されていた。
2. 育児中のアンメットニーズとしては、病児保育および突発的な時間延長等に対応可能な保育制度の要望が強く、今後の課題として抽出された。
3. 約 50%がワークライフバランスについて高い満足度を回答した。
4. 現在は男性医師の育児参加は浸透していないが、今後の希望や意思表示はあり、男性が育児に参加しやすい制度も併せて検討する必要がある。
5. 各部署の特性のため画一的な体制作りは困難だが、子育てと仕事の両立には上司の考え方、多様なニーズに合わせたメンタリング、育児支援制度、ワークシェアリングの円滑な運用が重要である。
6. 慶應病院での育児支援に関連する制度の認知度は不十分で、周知に努める必要がある。